

開催日時：平成21年2月13日（金）15：50～17：10

敬称略

学校評議員：原 修一郎、小山 ひさ子、湯本 弘、有賀 透、岡村 寛、池田 仁士（黒岩 拓吾：欠席）

学校側：学校長、全・定教頭、事務長、全・定教務主任、教育課程・学習指導委員長、  
進路指導主任、生徒指導主任、生徒会主任、3学年主任、

1. 開会の言葉
2. 学校長挨拶
3. 全日制学校評価（現況説明と学校中間自己評価とに基づき、学校関係者評価を実施）
  - ・学習指導
    - ・生徒の生活実態把握のため、7月に生徒の生活実態調査を行い学習指導・進路指導に活かした。
    - ・11月に公開授業や授業アンケートを実施、教員の指導力向上および授業改善を図った。
    - ・不振者向け補習や進学対策補習の実施および資格取得支援も積極的に行った。等
  - ・生徒指導
    - ・多くの生徒が落ち着いた学校生活を送っていて、反省指導対象者は激減した。
    - ・校門における定期的な身だしなみ指導・あいさつ励行指導を行った。
    - ・毎時間の校内巡視による盗難の予防・中抜け防止指導を積極的に実施した。等
  - ・進路指導
    - ・本年度卒業生の進路状況：就職47%、進学53%。
    - ・就職活動では、経済環境の悪化により苦戦したが地元企業からの長年の信頼もあって結果は例年並みとなった。進学は、指定校制度の活用がほとんどであった。等
  - ・生徒会活動
    - ・クラブ活動や生徒会活動では、三年生が立志館生徒の「良き見本」となって後輩を引っ張った。
    - ・陸上部やスキー部がインターハイ出場を果たしたのをはじめ、各クラブとも積極的に活動した。等
  - ・その他
    - ・全日制最終年度にあたり、その良き伝統を踏まえた立志館高校への円滑な移行を念頭に、更に地域に愛され期待される学校づくりを実践した。
    - ・研修会等で教員の資質向上や学校の安全管理を図った。等
4. 定時制学校評価（現況説明と学校中間自己評価とに基づき、学校関係者評価を実施）
  - ・入学してくる生徒のなかに「学習面や対人関係で困っている生徒」が多くなってきている。
  - ・学校や就業支援センターなど外部との連携を行っている。
  - ・授業でも「書く」ことを重視した学習、習熟度別学習などの工夫をしており、教育課程についてもこの観点からの検討が課題である。等
5. 学校評議委員からの意見・感想（学校関係者評価を含む）
  - (1) 全日制
    - ・教育活動の中で課題解決学習やプレゼンテーション能力の育成が意図され、その成果もあがっているように思われる。
    - ・地域で開催される各種イベントに数多くの生徒が参加していて好ましい状況である。
    - ・職員が指導する姿は理解しているが、生徒の身なり服装の様子、校地内の清掃の状況はやや不十分である。
    - ・専門分野での学びを深めさせ、資格取得者を増加させて欲しい。（中野立志館高校へも期待）
    - ・学習指導や進路指導およびクラブ活動等の本校の良き点が中野立志館高校で生かされ、地域に愛され信頼される学校となって欲しい。
  - (2) 定時制
    - ・軽度発達障害の生徒の存在も考えられる。中学校とのさらなる連携が必要となろう。
    - ・一人一人を大切にしたい指導や支援は、「人」「もの」また「環境」などの点で、大変なことと思う。
6. 閉会の言葉